



【 転 機 】

The Turning Points

転 機

よしお

私にとっての大きな転機の一つは、特許業界への転職です。

特許業界へ入る前、私は化学メーカーで自動車排気ガス浄化触媒（三元触媒）を扱っていました。当時から、世界の自動車市場は中国・インド市場等の隆盛で拡大傾向にあり、それに伴い自動車用触媒の需要も増加傾向にありました。よって、ビジネスの将来性・安定性という点で前職は魅力あるものでした。また、1970年代を端緒とする自動車用触媒の技術は、当時既に磐石といえるほどに成熟した技術でした。私の属していた企業は、業界標準となる基礎特許を保有し、世界市場を席卷していましたが、その存続期限が近年中に迫っていたことが技術分野の成熟度を象徴していました。このような状況にあって、私は、成熟した技術のみならず、未だ見ぬ新しい技術にも触れてみたいと思うようになりました。そこで、日ごろ多様な発明と接する機会を持てる特許業界に惹かれ、転職を決意しました。

転職を機に、仕事に対するイメージも一転しました。前職は、社内の多様な部署との連携、調整に重きがかかる総合職であったため、自分の働きが会社全体の収益にどの程度貢献しているのが実感しにくい側面がありました。また、前職で習得した職能は、企業組織を前提として初めて価値を生む組織依存的な性格のものでした。現職においても、社内の他部署との連携、組織力が重要であることに変わりありませんが、現職では、自分の収益力を把握しやすく、また、仕事に対する責任の所在も明確です。この点で、現職には厳しさや緊張感を感じる一方、自分次第であるところに遣り甲斐を感じています。

“特許業界への転職”という転機が、自分にとって吉と出るか凶とできるか、判断するにはまだ時間が必要だと思いますが、日々発明との出会いを楽しめれば、と思っています。

転機について思うこと

工藤 莞司

我が半生で二度節目の転機に出会った。一度は30数年という長く勤務した職場を退職する時である。二度目は法科大学院の実務経験教員への着任だ。一度目は特許事務所に就職することができた。いずれもラッキーとしか言いようがないが、それにしても、大きな転換期においてタイミングが良かった。自ら転機と察して積極的に動いたのではない。言わば棚ぼた式でもある。しかし、それではあまりにも話が旨すぎる。思い当たることはないではない。

それは長年の間に知らず知らずに築かれた人的な繋がりにあると思う。在庁時代は途中から商標審査という専門職を希望して携わった。それが基礎となって現在があるわけだが、それ以外の様々な経験が背景となった。審査・審判の傍ら、登録事務の機械化、PCI加入に伴う特許法等の改正やサービスマーク登録制度導入のための商標法の改正、工業所有権制度百年史編纂作業、特許研究誌の編集等にも従事した。これらの業務においては、知識や経験の習得の場であったのみならず、多彩な方々と仕事をする機会に恵まれ、多くの教えを戴いた。日頃中々接することができない幹部はもとより、学者や企業の担当者、高名な弁護士・弁理士等とも議論する場面にも遭遇できた。

これらを通じて、商標の審査・審判だけでは得られない知識を習得し、経験を経たことは間違いない。そればかりではなくいつの間にか期せずして多くの方々とも挨拶以上の知己を得ていた。そして、これがタイミング良く二度の転機にプラスに作用した。今思えば、審査以外の仕事をいとわず当時の上司の命令にも逆らわないで、諸々の業務を経験させて貰ったことが良かったと思う。そして、これまでお世話になった多くの方々に感謝を忘れてはならない。

【 転 機 】

The Turning Points

「住みやすい町」へ引越

ま め

先日、東日本橋から御徒町に引越しをしました。二年以上住んだ東日本橋も便利で、愛着もあったのですが、もっと「住みやすい」町で暮らしたいと思い、引越しを決意しました。

これまでの一人暮らしの経験から、

最寄駅から五分以内

ガスコンロが二口以上・・・

という二点にこだわって、物件を探しました。十二月と一月の土・日を全て物件探しに費やし、東日本橋の部屋の更新通知期限が迫った先月、ようやく心を決めて、今の部屋の契約をしました。

新しい部屋には、ガスコンロが二口！！近くにはスーパーもあります。これまでは電車に乗らなければスーパーに行くことができず、不便だったので大進歩です。おかげで、趣味の一つである「料理」を作る回数が増えて、充実しています。

まだ引っ越したばかりで、家具や小物などが揃っていないのですが、風水サイトとにらめっこしながら、お気に入りの物を少しずつ購入していこうと思います。

自分らしい部屋を作り上げて、癒しの場を確保し、仕事もプライベートも充実させたいと思っています。



私の“転機”

谷原 彩子

私にとっての転機は、いくつかありますが、その中で結構大きかったと思えるものがあります。それは、実家を出て一人で暮らし始めたことです。

一人で暮らし始めたのは5年ほど前です。実家は横浜市内の外れにあり、若干通勤に不便なことを除けば、生活に不自由することはありませんでした。ちょうどその頃、親と距離が近過ぎたせいか、親とあまりうまくコミュニケーションがとれていなかったため、実家を出ることをきっかけに距離を置くのもいいのではないかと考えていた事と、それまで一度も親元を離れて暮らしたことがなかったので、一人暮らしへの憧れみたいなものもあって、一人暮らしと思うようになっていました。

最初親には反対されましたが、なかば強引に実家を出ました。「一人で生活するなんて、そんなに大変なことじゃないだろう。むしろ、一人の方が親の目もなく気楽なのは」と高をくくっていました。しかし、実際には仕事をしながら一人で暮らすということは、慣れるまで大変でした。その時、私が心地よく生活していけるよう、親が陰ながら支えてきてくれたのだと改めて痛感し、実家を出て生活していくと決意した以上、親に心配をかけないように大変でもきちんと生活していこうと意識が変わり始めました。

一人の生活が一年、また一年と過ぎていくうちに、親の大変さ、私に対する思いも少しずつ理解できてきて、親に対する感謝の気持ちをこれまで以上に持てるようになりました。反対していた親も私の気持ちを分かってくれたようで、今では私の一人暮らしに理解を示し、温かく見守ってくれています。親との距離も程よいようで、実家にいた頃よりもいい関係になりました。一人で暮らしてみて、自分の親に対する気持ちや生活観が変わったので良かったと思っています。



【 転 機 】

The Turning Points

私の転機

柏木 潤也

大学卒業後、就職活動をして会社に就職という道を選ばなかった私は、毎年転機の連続でしたが、その中でも大きな転機は特許図面を描きはじめたことだと思われます。

オートバイにキャンプ道具を積んで東京に出てきてから数年間、小さな測量会社でアルバイトをしていた私は、毎年お金がたまると1、2ヶ月休みをとっては旅行に行っていました。

その年、バイクで東北、北海道を2ヶ月間ツーリングし、帰ってきてすぐ仕事が減ったことを理由にクビになってしまいました。

貯金も少なかったため、あわててアルバイト情報誌で仕事を探し始めましたが、簡単には見つからず、はじめて行ったハローワークでピンときたのが特許図面製作の仕事でした。

面接で何か作品をもって来るように言われ、測量会社で製図もやっていた私は、合い鍵でクビになった会社に忍び込み、ちょっとの間製図用具を拝借し、特許図面とは恐らくこんなものだろうとあたりをつけ、ササッと作品を作り持って行ったところ、なぜか採用されてしまいこの業界に入ることになりました。

以来十数年、これほど長く続けることになるとは思いませんでした。天職かどうかはまだわかりませんが、明らかに“適職”ではあると思っています。

思えば小さい頃は“絵描きさん”になるのが夢で、小中学校のころは授業時間の半分は落書きに費やしていました。今の仕事も絵描きといえば絵描きなので、まあ夢がかなったことになるのではと思っています。

普通は美大に行って、デザイン事務所に入るなりするのが一般的な道でしょうが、私の場合はある時は自分のやりたいことを正直にやり、またある時は周りの状況に流されてしまったり右往左往するうちにどうにか自分に合った職にたどり着いたという感じです。

ただ転機がやってきた時に図面会社に採用されチャンスをつかめたのは、大学卒業後にいろいろな職を経験し、好きなことをやってきたことを評価されたようですので、全くなにが幸いするかわからないと感じます。

小学校のとき貴重な授業時間をけずって、落書きを続けてきた努力は無駄にはなりませんでした。

人生の転機

木村 牧人

私にとって生活や人生の転機となる出来事や出会いは数多くあり、もちろん創英に入社したことも大きな転機の一つですが、その中でもこの先の長い人生にも深く影響するであろう特別な出来事が一つあります。

それは学生時代に訪れたイスラエルでの体験でした。もともと音楽や歴史を通してユダヤ文化に興味を持ち始めた事と、尚且つ兄が当時首都エルサレムに留学していた事から、日本人にとってあまり馴染みのない、むしろあまりイメージが良くないイスラエルという国は、自分にとって意外と普通に学生旅行として選択する土地の一つでした。

2週間というイスラエルほどの小国を旅行するには十分な日程でしたが、そこで見たシナイ山のふもとに広がる中東独特の荒野風景や、首都エルサレムで触れた宗教や文化、そして天然要塞マサダやユダヤ人記念館ヤドバシェムで学んだユダヤの歴史など、旅行ひとつひとつの記憶が今でも鮮明に甦るほどの貴重な体験となりました。

そのイスラエル旅行の中で、自分の日本での生活に対する考え方や大げさに言えば人生に対する姿勢を考える転機となったのが、イスラエル建国についての歴史を学べたことでした。2000年間の流浪や迫害という背景から建国の理念を実現させ、また世界中に離散した文化や言葉の異なる人々がイスラエル建国のために一つとなって労働した歴史の事実をまさにその土地で直接的に学べた事がこの旅の醍醐味であったと言えます。またイスラエル初代首相ダヴィッド・ベングリオンが首相辞任後、建国のため一国民、一開拓者としてネゲブ砂漠開拓に勤しみ、イスラエルの若者と共に労働した話を知り、ベングリオン亡き後も彼の開拓精神を受け継いで砂漠開発に携わる人々の姿を見た時に、今まで個人の夢や希望を第一優先と考えていた人生観から、イスラエルの建国理念や開拓精神を通して人にはまたこのような人生の生き方・生きがいもあるのかと人生に対する価値観や考えの「幅」の広がりを20代そこそこの若造ながら感じ取る事が出来ました。この新しい人生観の発見が今後の生活にどのように影響してくるのか分かりませんが、また少々大袈裟に聞こえるかもしれませんが、その理念や信念を基盤とした社会人へと成長する願いを持って日々の生活を過ごしていければと思っています。